

山形大学

蔵王協議会だより

YAMAGATA UNIVERSITY ZAO CONFERENCE

20

2014



地域医療を見つめ
愛され続ける病院をめざして。

こえ
voice

寄稿

公益社団法人 山形県看護協会 会長 川村 良子

関連病院から

医療法人 伍光会 理事長 肌附 英幸
岩手県立千厩病院 病院長 吉田 徹

指導医から

歯科口腔・形成外科学講座 菊地 憲明
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 石田 晃弘

研修医から

齋藤 慶太 樺澤 崇允

- 資料1 平成25年度研修病院のマッチング状況
- 資料2 平成25年度都道府県毎第一希望マッチ者数
- 資料3 平成26年度卒後臨床研修プログラム・2年次
- 資料4 後期研修医の動向



新たに山形大学蔵王協議会の 顧問に加えていただいて

公益社団法人 山形県看護協会
会長 川村 良子

日頃より山形県看護協会の活動に対し、ご支援ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

この度、山形大学蔵王会会長である山形大学学長特別補佐嘉山孝正教授のお計らいにより顧問として参加させていただくことになりましたことに対し感謝申し上げます。

蔵王協議会は、嘉山会長の強いリーダーシップのもと、山形大学医学部と山形県、山形県内の関連医療施設の医学・医療の充実と発展、地域医療の向上に努められ、かつ活動を“見える化”されていることに対し、敬意とともに見習わなければならないことと思っております。

この度、顧問として参加させていただくことになりましたので、蔵王協議会の目的・事業をきちんと理解し、顧問の1人として努力していきたいと考えておりますので、嘉山会長様はじめ役員の方々に、そして会員の皆さまにはご指導宜しくお願い申し上げます。

また、嘉山教授が委員長となり、在宅医療・在宅看護の質向上、特に、最新の「がん」に関する知識と技術についての教育の機会を提供していただける山形大学医学部在宅医療・在宅看護教育センターを、今年度より開設していただき、現在教育プログラムに沿って、在宅看護の質向上に向け学びを深めております。看護の質向上は、患者・家族に安全で安心した在宅並びに施設での看護の提供に繋がります。このような教育の機会を提供して頂き感謝しております。

今後とも、嘉山教授をはじめ医学部長山下教授、病院長久保田教授、看護学科長細谷教授、大谷教授、那須看護部長はじめ山形大学医学部、附属病院の皆さまからのご支援をいただければ有難く思っております。

さて、山形県看護協会は、平成25年4月1日より6つの

訪問看護ステーションと3つの居宅介護支援事業所とともに公益社団法人に移行し活動を行っております。

山形県看護協会の始まりは、昭和22年6月5日に日本助産婦看護婦保健婦協会山形県支部として発足し、昭和57年6月30日社団法人日本看護協会山形県支部として保健婦部会・助産部会・看護婦部会の三部会が統合、更に平成3年10月1日に社団法人山形県看護協会が設立し、社団法人日本看護協会山形県支部と二本立てで運営、平成5年6月10日より漸く社団法人山形県看護協会として一本化となり本格的に活動を開始し、平成25年4月1日より公益社団法人山形県看護協会として歩みはじめました。現在山形県看護協会の会員は、7,384名（保健師；396人、助産師；365人、看護師；6,374人、准看護師；249人）で加入率は約52%になっております。

山形県看護協会は「地域とともに築く看護」を基本姿勢とし、今年度の重点事業として、「看護職が働き続けられる職場づくりの推進と普及」「看護の質向上のための継続教育の強化」「長期的な療養生活を支える在宅ケアの強化」「職能委員会活動の充実」「公益社団法人に伴う役割発揮」を掲げ、事業を展開しております。

加えて、山形県看護協会は山形県の委託事業として山形県ナースセンターの運営を行っております。看護職であれば会員・非会員に関わらず、無料で看護職の就職の斡旋、看護職の悩み等に対する相談事業、訪問看護の研修、看護の日に関する事業などを行っており、効果をあげているところです。医療機関などで看護職募集などのご相談もさせていただいておりますのでご活用いただければ有難く思います。

最後に、山形大学蔵王協議会の益々のご発展を祈念してご挨拶と致します。



山形大学、蔵王協議会と共に

医療法人 伍光会
理事長 肌附 英幸

山形大学附属病院、並びに蔵王協議会の皆様、日頃より多大なるご支援を頂きありがとうございます。私ども伍光会は平成16年、東京大田区にて田園調布医院として地域に根ざした外来診療と在宅医療を中心とした医療機関として発足いたしました法人であります。それから10年余り、在宅医療の啓蒙と充実を法人の理念として、今日まで順調に診療を拡大してまいりました。

現在では大田区の田園調布医院を本部に、神奈川県川崎市の川崎北部在宅診療所、千葉県木更津市の上総在宅診療所、そしてここ山形県東根市に北村山在宅診療所と4箇所の医療機関にて在宅医療を中心に診療を行わせて頂いております。なかでもここ、北村山在宅診療所は山形県内でも比較的医療過疎的な地域の尾花沢市、大石田町、村山市、東根市を診療圏として今から3年前の平成

22年に開設致しまして、現在では自宅の一般在宅患者さん80余名、高齢者施設に入居の患者さん150余名を診させて頂いており、最遠では銀山温泉など尾花沢市の奥地の地域まで訪問診療に日々走り回っております。

北村山在宅診療所の開設にあたっては、私自身山形大学18期生の出身でもありこの地で診療所を始める事が出来た事に対する感慨と思い入れもひとしおです。

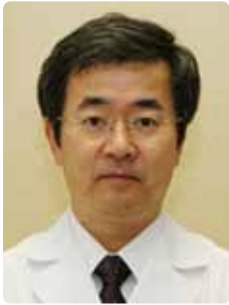
疾患内容は様々ですが高齢に伴うADL低下や脳血管障害後遺症、認知症や糖尿病などの慢性疾患等内科的疾患を中心に、中には脊柱管狭窄症などの整形外科的疾患の患者さんや筋ジストロフィーなどの難病、癌末期の患者さんなど多彩な患者さんの在宅生活をお手伝いさせて頂いております。診療は私を始めとし医師が6名余りに看護師6名、ほかりハビリ担当が2名で24時間体制で緊急の対応

等に当たっております。本年度は夜間帯の1日あたり緊急訪問件数は2.3件/日、並びに在宅での看取り件数が4.1件/月と微力ながら北村山地域の地域医療に貢献出来ていれば幸いと考えております。

山形大学病院からも時折こちらの診療圏の患者さんをご紹介頂きまして、急性期を過ぎた患者さんの退院後の在宅フォローや癌末期の方の在宅療養から自宅看取りといった症例のご紹介を頂いております。

今後は山形大学、蔵王協議会とより綿密に連携し医師の派遣やそれに伴い大学病院とのシームレスな病院、診療所の連携体制が構築していければ幸いと考えております。

今後ともより一層のご支援、そして蔵王協議会の皆様ならびに諸先輩方からのご指導賜れば幸いです。



山形大学 蔵王協議会への感謝

岩手県立千厩病院
 病院長 吉田 徹

岩手県立千厩病院は、岩手県南の一関市の東地域(旧東磐井地域)約5万人の医療圏をカバーする地域病院として、地域のプライマリケア、高齢者医療、二次救急機能、透析センター機能、消化器・泌尿器がん治療(日本がん治療認定医機構認定研修施設)機能を担っております。当院は病院理念を「すべての人々に安らぎと希望を」と定め、患者さんやその家族の方々だけでなく、地域住民や当院の職員も含め、すべての人々が安らぎを感じ、希望を持つ事ができる病院となる事を目指して、地域医療に取り組んでいます。

現在の病院は平成8年2月1日に新築移転致しました。山形大学蔵王協議会のご協力を頂き、山形大学耳鼻科からの派遣は平成7年から開始されております。以来18年という長きにわたり山形市から約170km離れた当院まで週二回の診療応援を現在まで継続して頂いております。本当にお忙しい中、遠路の応援を有り難うございます。耳鼻科医師の不足は全国的に深刻で、岩手県内の基幹病院も、耳鼻科医師の獲得に苦労している現状の中、当院が耳鼻科診療を途切れる事なく継続出来ている事は、ひとえに蔵王協議会のご尽力の賜物と心より

感謝致しております。

定期刊行されて送付されてくる「蔵王協議会だより」に掲載されております加盟病院一覧を見ますと、山形県内のみならず、当院を含む県外の多くの施設の支援を展開されており、全国にも類を見ない非常に素晴らしい活動と思います。

岩手県は、「県下にあまねく医療の均霑を」という理念のもと、昭和25年に28の県立病院が開設されました。現在は、開設当初とは交通事情もかなり異なってきた地域もあり、病院の統廃合等がすすみ20病院、6つの診療センターとなりましたが、全国でも最も県立病院の多い県となっております。東日本大震災では、その県立病院のうち陸前高田病院を含む三陸沿岸の3病院が壊滅し、その他の沿岸病院も多大な被害を受けた訳ですが、県立病院のネットワークが迅速に機能して急性期からの被災地病院への支援が展開されました。東西同じ緯度に位置する沿岸病院と内陸病院との間での患者搬送が行われ「横軸連携」「肋骨支援」などと名付けられて全国的にも高い評価を受けております。

当院も、その連携病院の一つとして活動致しましたが、震災の際には山

形県を含む全国各地から、多くの支援を頂きました。山形大学蔵王協議会の関連病院の皆様にも、この場を借りまして改めて御礼申し上げます。

当院は平成13年には18名在職した常勤医師が、臨床研修制度の導入等の影響もあり、平成24年の春には6名にまで減少し、病院機能の維持が困難な状況にまで落ち込みました。そんな中で、岩手県内外の病院からの応援を頂くとともに、病院職員が一丸となってチーム医療を展開し、地域住民の方々にはボランティア活動を通じて色々な場面で病院を支えて頂いて、なんとか機能を継続して参りました。今年度は新たに回復リハビリ病棟も開設し、常勤医師も徐々に増加して、更なる充実を図っている所であります。

高齢者社会の到来に伴い、これからは「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療への転換が叫ばれております。是非、これからは蔵王協議会のバックアップを頂きながら、近隣病院との機能分担を進めまして地域の医療を守って参りたいと考えております。

どうぞこれからもよろしく願い致します。



歯科口腔・形成外科学講座
菊地 憲明

研修指導医から一言

臨床研修制度のない世代の人間である私が、本学の卒後臨床研修センターの一員になっています。会議は毎月一回開催され、研修医の人達の、スケジュール調整、レジデントハウス、メディカル・ラボの充実、大学のセミナー開催、レポートの提出状況、健康状態、研修内容の検討、リスクマネジメント事例案件の検討など、細かい検討が大学の研修医の一人ひとりについて行われています。これをストレートといわれる、医師免許取得と同時に希望科の医局に入局した自分の事と重ねてみますと、毎回、担当の先生方、事務の方々の熱意と労力を知るに至り、頭が下がる思いです。給料体系をはじめ、恵まれた研修制度が整ってきていることに羨ましさも感じています。

そんな中、卒後臨床研修センター教員の当番担当として、2013年7月に第46回レジナビフェア東京（東京ビッグサイト）に参加してきました。後期研修医向けの会でしたが、548施設、来場者総数2,258名と予想を上回る規模でした。

特に目立ったのは、有名施設では病院・施設単位ではなく、単科講座として広いブースを確保して参加していた事です。そこで思ったのは、東北6県の医学部の中では、いつも一番多い研修医が残ってくれる山形大学ではありますが、やはり全国となるとまだまだ厳しい状況があると実感しました。これまでも、幸いなことに他大学卒業者の研修医の人達も希望して来て来ています。しかし、さらなる本学の研修の魅力を発信していく必要性があると実感しました。

私が、学生から大学に残るメリットは何かと聞かれた際には、「周りを見れば、先輩、同級生がいて、そういう人間関係によって各科の垣根を越えたスムーズなやり取りができること」と答えています。それが現実のものになるように、私も間口を開けて、研修医の皆さんからいつでも気軽に声を掛けてもらえるように努力しています。先輩達の存在を上手に使うことでより充実した研修ができることを祈念しています。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
石田 晃弘

研修指導医として伝えたいこと

この度、前任者より臨床研修指導医の任を引き続き担当させていただきます。私が医師として第一歩を踏み出した当時は現在のような研修制度はなく、1年目より耳鼻咽喉科の専門研修を受けてきました。耳鼻咽喉科は新生児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とする科であるがゆえに合併症を有する患者さんも多く、当時は糖尿病にはインスリンを使うということはわかっても実際に使用する薬剤名や投与量など全く分からず悪戦苦闘したことを今でも思い出します。このような自分の苦い経験を踏まえますと「将来の専門領域にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう first aid と primary care の基本的な診療能力を身に付ける。」という当院の臨床研修における基本的理念は、将来専門性の高い科を志望する医師にとってこそ大変重要であると考えます。

さて、医療においても IT 化が進み時間が経ちますが、現在は臨床研修に必要な知識や手技の

ほとんどを教科書だけでなくネット上で手に入れることができます。知らない疾患があればネットで検索すると 1 秒以内で答えが返ってきて参考文献まで手配できます。ライン確保等の基本手技についても動画で繰り返し視聴することができます。このような時代に我々指導医は何を心がけて指導にあたるべきでしょうか。先日ある基本手技に関して、若手の先生からマニュアルに書いてある通りにやってもうまくいかないと言われ相談をされました。知識は言葉で伝えることができますが、医療技術・手技は微妙な力加減など言葉では伝えきれない要素が数多く含まれます。また、患者さんやコメディカルスタッフとのコミュニケーションの取り方なども広義の医療技術であり、マニュアル化できない臨機応変な対応が要求されます。研修医の先生方にはどんな教科書にもサイトにも載っていない生きた知識と技術を指導医から盗んでほしいと思います。



初期研修の一年間を振り返って

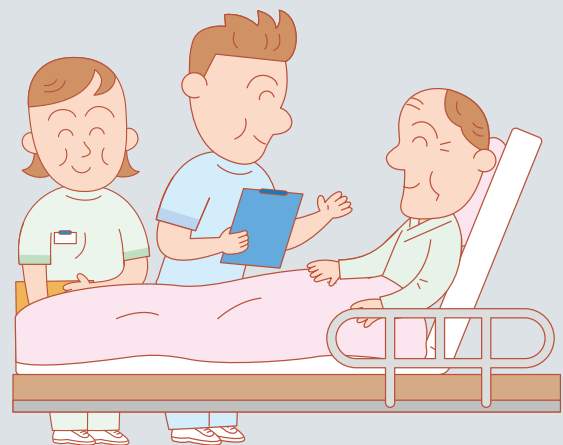
山形大学医学部 研修医 齋藤 慶太

私は現在卒後一年目の初期研修医です。志望科である消化器内科より四月から研修を始め、その後は必修である内科全般で研修をさせていただきました。

最初は私も初期研修の病院をどこにするのかで悩んでいましたが、最終的には山形大学医学部附属病院にて初期研修を行うことに決め、この選択で良かったと考えています。母校である山形大学で研修を行う長所として、研修医の教育体制が整っていると言われてはいますが、実際の研修を通してそのことを実感することができました。上級医の先生方の多さ、指導の充実さだけでなく、各種シミュレーター設備や研修医セミナーの開催などがあり、また臨床研修センター支援もあるため、集中して研修に取り組むことが

可能であり、大学全体で手厚く指導していただいていると感じています。

研修を始めてから早くも一年が経とうとしていますが、各科の先生方や医療スタッフの方々の指導のおかげで、医師として多少は徐々に成長できていることを期待しながら、早く患者様・同僚・スタッフの方々の助けになりたいと考えているところです。来年度以降は後輩も出来るようになるため、さらに日々知識・経験を積んで成長できるように研修に励みたいと思います。





2年間の初期研修を通して

山形大学医学部 研修医 榊澤 崇允

私は山形大学医学部附属病院で初期研修を行いました。途中の10ヶ月間、研修協力病院である公立置賜総合病院や朝日町立病院でも研修をさせていただきました。厳密にはまだ2年間の研修は終了していませんが、この2年間で振り返って感じたことを述べさせていただきます。

諸先輩方の受売りでもありますが、この先、約20年後のある期間を過ぎると、医者は全国的に供給過多の時代に突入するようです。今の山形のような医師の売り手市場とは違い、紛れもない競争社会です。確実に生き残るには専門化・細分化された分野で最先端をひた走るか、自分だけの高度な技術を身につけるかでしょう。我々若い医師が、早くから自分の専門分野を決め、専門技術の習得にあたることは来る将来への大きなアドバンテージになると考えます。私は研修前に決めていた通り、2014年からは病理を専修するので、この2年間は各科で病理が関連するところに特に注目しました。わずかな検体を取ることの困難さを感じたこともありました。患者さんの病気の診断、そして治療に至るまでに、様々

な職種の方々の、多大な努力が積み重なっていることも知りました。お世話になった先生方をはじめ、全てのスタッフの方々と、関わった全ての患者さんのおかげで、初期研修の2年間で3年目以降のキャリアの直接の糧にできたと思います。

一方で振り返ると、もっと視野を広く持ち、病理に直接関係しない分野、例えばICLSやJATECのような救急資格などにも積極的に取り組んでいけばよかったと感じます。何が本当に将来の自分の役に立つかなど、「神のみぞ知る」です。私の場合は金銭的な問題でこのような資格取得に消極的だった部分もあるので、研修病院の先生方には、後輩たちがこれらの資格を考えた際、資金的に援助いただけるシステムを作っていただければ嬉しいです。(教科書なども含め身銭を切ってこそ、自分の血肉になると思います。)

まとまらない文章で恐縮ですが、まずは2年間お世話になりました。

平成25年度 東北地区大学病院及び山形県内研修病院のマッチング状況

(平成25年10月24日現在)

1. 東北地区大学病院

病 院 名	定 員	マッチ数	空き定員	定員充足率
弘前大学医学部附属病院	43	10	33	0.23
岩手医科大学附属病院	35	6	29	0.17
東北大学病院	30	19	11	0.63
秋田大学医学部附属病院	36	18	18	0.50
山形大学医学部附属病院	50	25	25	0.50
福島県立医科大学附属病院	41	12	29	0.29

2. 山形県内研修病院

病 院 名	定 員	マッチ数	空き定員	定員充足率
山形大学医学部附属病院	50	25	25	0.50
山形県立中央病院	15	15	0	1.00
山形市立病院済生館	10	7	3	0.70
山形済生病院	8	3	5	0.38
公立置賜総合病院	10	4	6	0.40
米沢市立病院	5	2	3	0.40
山形県立新庄病院	4	2	2	0.50
鶴岡市立荘内病院	5	4	1	0.80
日本海総合病院	9	8	1	0.89
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	0	4	0.00
山形県合計	120	70	50	0.58

(参考) 24年度マッチング結果

病 院 名	定 員	マッチ数	空き定員	定員充足率
山形大学医学部附属病院	50	22	28	0.44
山形県立中央病院	14	14	0	1.00
山形市立病院済生館	10	10	0	1.00
山形済生病院	8	0	8	0.00
公立置賜総合病院	10	3	7	0.30
米沢市立病院	5	0	5	0.00
山形県立新庄病院	4	1	3	0.25
鶴岡市立荘内病院	5	2	3	0.40
日本海総合病院	9	9	0	1.00
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	1	3	0.25
山形県合計	119	62	57	0.52

平成25年度 都道府県毎第一希望マッチ者数

県名	募集定員	マッチ者数①	マッチ者のうち、当該都道府県内の病院を第1希望にしていた学生の数②	マッチ者に対する1位マッチ者の割合 ③ = $\frac{②}{①} \times 100$
北海道	418	292	257	88.0
青森県	131	71	66	93.0
岩手県	126	68	58	85.3
宮城県	172	119	107	89.9
秋田県	128	64	57	89.1
山形県	120	70	62	88.6
福島県	153	92	80	87.0
茨城県	186	1126	113	89.7
栃木県	168	136	120	88.2
群馬県	117	80	70	87.5
埼玉県	391	231	189	81.8
千葉県	393	326	248	76.1
東京都	1,453	1,295	942	72.7
神奈川県	646	550	379	68.9
新潟県	182	79	73	92.4
富山県	101	55	49	89.1
石川県	181	103	94	91.3
福井県	89	49	44	89.8
山梨県	78	58	51	87.9
長野県	149	119	106	89.1
岐阜県	149	113	100	88.5
静岡県	243	169	154	91.1
愛知県	537	453	396	87.4
三重県	126	101	91	90.1
滋賀県	101	72	57	79.2
京都府	282	250	184	73.6
大阪府	653	619	479	77.4
兵庫県	380	326	263	80.7
奈良県	104	94	81	86.2
和歌山県	98	86	82	95.3
鳥取県	75	33	29	87.9
島根県	87	49	42	85.7
岡山県	208	166	141	84.9
広島県	187	159	130	81.8
山口県	114	70	67	95.7
徳島県	98	52	50	96.2
香川県	102	60	52	86.7
愛媛県	117	84	71	84.5
高知県	96	58	54	93.1
福岡県	477	397	333	83.9
佐賀県	91	70	56	80.0
長崎県	148	88	83	94.3
熊本県	117	106	77	72.6
大分県	107	55	52	94.5
宮崎県	85	45	41	91.1
鹿児島県	160	84	78	92.9
沖縄県	165	137	124	90.5
全 国	10,489	7,979	6,532	81.9

平成26年度 卒後臨床研修プログラム・2年次

No.	氏名	平成26年度・2年次												備考
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
A-2	石垣 隆介	産婦	白鷹	日本海(小児)	日本海総合病院(小児科)								スケジュール変更(130528)	
A-3	小貫 孝則	小国	二外	精神	済生館(小児科)									
A-4	金子 崇	米沢市立病院(放射線)		米沢(産婦)	米沢(小児)	真室川	放射線治療科					スケジュール変更(131205)		
A-5	菊田 雅斗	日本海総合病院(泌尿器)					日本海(麻酔)	日本海(小児)	最上	泌尿器科				
A-6	木村 雅俊	米沢(精神)	米沢(麻酔)	朝日	放射線									
A-7	草川 仁志	置賜(小児)	置賜(精神)	公立置賜(神経内科)		小国	皮膚科							
A-8	窪木 祐弥	済生館(泌尿器科)					麻酔	二外	小国	泌尿器科				
A-9	齋藤 慶太	救急②	救急①	二内		公立置賜総合病院(消化器内科)								
A-10	齋藤 悠司	日本海(整形外科)		日本海(精神科)		日本海(循環器内科)		日本海(神経内科)						
A-11	末永 信太	置賜(麻酔)	置賜(小児)	最上	泌尿器科		済生館(泌尿器科)							
A-12	鈴木 佑弥	麻酔	小児	高畠	県立中央病院(神経内科)		県立中央病院(脳外科)		三内					
A-13	須藤 文	置賜(産婦)	置賜(一外)	白鷹	山大(希望科未定)									
A-14	高橋 奈那	腫瘍内科		南陽	小児	精神	県立鶴岡病院(精神科)							
A-15	竹内 隆二	米沢市立病院(救急)		日本海総合病院(整形外科)					整形外科					
A-16	新野 一穂	朝日	日本海(小児)	日本海(精神)	日本海(放射線科)					放射線科				
A-17	野内 雄介	公立置賜(救急)		最上	精神	形成外科	耳鼻科							
A-18	堀江 繁光	泌尿器科		朝日	産婦	精神	日本海総合病院(泌尿器科)							
A-19	松下 高幸	白鷹	脳外	精神	眼科									
A-20	森岡 大智	県立鶴岡(精神)					白鷹	産婦	精神	精神科				
外科重点	中井 信吾	日本海(麻酔)	日本海総合病院(一般外科)											
産婦重点	平野奈々子	小児	最上	産婦人科			済生病院(産婦人科)							
No.	氏名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
平成26年度・2年次														

後期研修医の動向 (平成26年1月1日現在)

診療科名	人数	内 訳													備考
		性別		初期研修			出身大学		出身		研修先				
		男	女	医学部 附属病院 山形大学	県内他 病院	県外 病院	本 学	他 大学	山 形 県	そ の 他	大学病院			関 連 病 院	
											助教	医 局	大 学 院 生		
第一内科	45	35	10	26	26	1	40	5	18	27	1	17	10	17	1名休職中
第二内科	28	21	7	20	20	3	24	4	15	13	0	11	1	16	
第三内科	8	7	1	7	7	1	7	1	5	3	0	5	0	3	
精神科	9	9	0	9	9	0	9		2	7	0	3	0	6	1名休職中
小児科	16	11	5	12	12	2	16		5	11	0	5	0	11	3名休職中
第一外科	7	6	1	6	6	0	7		5	2	1	2	0	4	
第二外科	15	14	1	14	14	0	14	1	7	8	2	5	0	8	
脳神経外科	8	8	0	6	6	1	8		6	2	3	1	0	4	
整形外科	23	21	2	6	6	2	19	4	7	16	0	7	2	14	
皮膚科	6	2	4	5	5	1	4	2	1	5	1	4	0	1	1名休職中
泌尿器科	10	8	2	6	6	1	10		3	7	1	4	0	5	
眼科	16	7	9	12	12	0	15	1	7	9	6	6	0	4	
耳鼻咽喉科	12	9	3	4	4	2	10	2	5	7	1	3	0	8	
放射線診断科	14	8	6	6	6	1	13	1	7	7	3	5	0	6	
放射線治療科	10	6	4	4	4	3	10		2	8	4	2	0	4	
産婦人科	19	7	12	12	12	2	17	2	7	12	0	14	0	5	
麻酔科	19	5	14	8	8	1	14	5	3	16	3	10	0	6	1名休職中
歯科口腔・形	3	1	2	2	2	0	3		1	2	0	2	0	1	
成外科(形成)	1	1	0	1	1	0	1		1		0	1	0	0	
病理診断科	2	0	2	2	2	0	2		0	2	0	0	1	1	
救急医学	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0	0	0	
高次脳機能科	1	1	0	0	0	0	0	1	1		0	1	0	0	
腫瘍内科															
計	272	187	85	168	168	21	243	29	108	164	26	108	14	124	

※休職中は人数に含めない

山形大学蔵王協議会会則

- (名称)
第1条 本会を山形大学蔵王協議会と称する。
- (目的)
第2条 本会は、会員相互の緊密な連携と協力により山形大学並びに関連医療施設の医学・医療の充実と発展を図り、人材養成と地域医療の向上に寄与することを目的とする。
- (事業)
第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1)卒後臨床研修体制の整備等に関すること。
(2)関連医療施設との連携に関すること。
(3)山形大学地域医療医師適正配置委員会との連携に関すること。
(4)地域の医師の適切な配置に関すること。
(5)その他、前条の目的を達成するために必要な事業
- (会員)
第4条 本会の会員は、山形大学医学部教授会、山形大学関連病院会及び山形大学医学部教室委員会の構成員並びに山形県健康福祉部、山形県医師会、山形県歯科医師会、山形県看護協会及び山形県薬剤師会の代表より成る。
- (事務局)
第5条 本会の事務局を山形大学医学部教室員会内に置く。
- (役員)
第6条 本会に次の役員を置く。
(1)会長 1人
(2)副会長 3人
(3)顧問 5人
(4)運営委員 若干人
(5)監事 2人
(6)事務局代表 2人
(7)会計 2人
- (職務・選任)
第7条 会長は会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。会長及び副会長は、前条第3号から第7号までの役員及び第10条の委員を選任する。
- 2 原則として、会長は山形大学医学部長が、副会長は山形大学医学部附属病院院長及び山形大学関連病院会会長がその任に就く。ただし、山形大学医学部長が会長の任に就かない場合は、副会長の任に就くこととする。
- 3 顧問は、山形県健康福祉部代表1人、山形県医師会代表1人、山形県歯科医師会代表1人、山形県看護協会代表1人及び山形県薬剤師会代表1人とする。
- 4 運営委員は、医学部教授会構成員3人、関連病院会構成員3人とし、教室員会会長を加える。
なお、その他会長が必要と認めた者を加えることができる。
- 5 監事は、医学部教授会構成員1人、関連病院会構成員1人とする。
- 6 事務局代表は、原則として医学部教授会構成員1人、教室員会副会長1人とする。
- 7 会計は、医学部教授会構成員1人、教室員会書記長とする。
- (任期)
第8条 役員は任期は1年とし、再任を妨げない。
- (運営委員会)
第9条 本会の運営等を円滑に行うため、運営委員会を置く。運営委員会は、第6条の役員と次条の各部会の部長3人によって構成する。
- 2 運営委員会は、総会議案の協議、部会への事業の委任、調整等をはじめ会の実質的な運営に当たる。急を要する事項については総会に代わって協議処理できるものとする。
- (部会)
第10条 本会の目的達成のため次の部会を置く。

- (1)関連医療施設部会
(2)研修部会
(3)企画・広報部会
- 2 各部会の委員は、会長が副会長と合議の上、指名するものとする。
- 3 各部会の部長及び副部長は委員の互選によって選出する。
- 4 各部会の部長、副部長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 5 委員の構成については別に定める。
- (総会)
第11条 総会は原則として年1回会長が招集する。会長はほかに必要ある場合、運営委員会に諮り臨時の総会を招集することができる。
- 2 総会は、第4条の会員の出席により成立し、本会の目的を達成するための協議機関とする。
- 3 総会の議題は運営委員会で協議し、総会前に会員に通知する。
- 4 総会の議長は、会長をもって充てる。
- (会計)
第12条 本会の運営に必要な経費は、会費及びその他の収入をもってこれに当てる。
- 2 会費については別に定める。
- 3 運営委員会は、年度毎の予算決算について総会に報告し承認を受けるものとする。
- (会則の変更)
第13条 会則の変更は、運営委員会の議を経た後、総会出席者の過半数の賛成を得て行うものとする。

- 附則
この会則は、平成14年8月8日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成15年3月29日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成17年7月20日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成18年12月5日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成22年4月1日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成24年11月1日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成24年12月7日から施行する。

山形大学蔵王協議会部会規程

- (趣旨)
第1条 山形大学蔵王協議会会則第10条第5項の規定に基づき、部会の構成を定める。
- 2 会長が必要と認めるときは、構成以外の者を委員に加えることができる。
- (関連医療施設部会)
第2条 関連医療施設部会は、山形大学と関連医療施設との連携について協議し、次の委員をもって構成する。
(1)医学部教授会構成員 3人
(2)関連病院会構成員 3人
(3)医学部教室員会構成員 1人
(4)初期研修医 2人
- (研修部会)
第3条 研修部会は、初期2年間の研修体制等について協議し、次の委員をもって構成する。
(1)医学部教授会構成員 3人
(2)関連病院会構成員 4人
(3)医学部教室員会構成員 1人
(5)医学部学生 5人
- (企画・広報部会)
第4条 企画・広報部会は、山形大学蔵王協議会が実施する事業の企画、広報等について協議し、次の委員をもって構成する。
(1)医学部教授会構成員 3人
(2)関連病院会構成員 3人
(3)医学部教室員会構成員 1人
(4)初期研修医 2人

- (5)医学部学生 3人
- 附則
この会則は、平成14年8月8日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成15年3月29日から施行する。
- 附則
この改正会則は、平成21年3月17日から施行する。

山形大学蔵王協議会会費規程

- 第1条 山形大学蔵王協議会会則第12条第2項の規定に基づき、各構成員の年会費を次のとおり定める。
(1)山形大学医学部教授会 100,000円
(2)関連病院会 17,500円に加盟病院数を乗じた額
(3)山形大学医学部教室員会 200,000円
- 附則
この会則は、平成14年8月8日から施行する。

山形大学関連病院会会則

- (構成・名称)
第1条 本会は、山形大学に関連する医療施設を会員として構成し、山形大学関連病院会と称する。
- (目的)
第2条 本会は、会員相互の親睦、研修を図るとともに、山形大学蔵王協議会と密接な連携を取りながら卒後臨床研修及び地域医療の充実に寄与することを目的とする。
- 2 本会は、山形大学蔵王協議会に加盟するものとする。
- 第3条 本会会員は、前条の目的に賛同に入会した者とする。
- (入会)
第4条 会員になろうとする者は、所定事項を記入した入会申込書(別紙様式1)を会長に提出し、会長の承認を受けなければならない。
- (事務所)
第5条 本会は、事務所を山形大学蔵王協議会事務局内に置く。
- (役員)
第6条 本会に次の役員を置く。
(1)会長 1人
(2)副会長 1又は2人
(3)評議員 若干人
(4)監事 2人
- 2 会長は、総会で会員の中から選出する。
3 副会長及び評議員は、会員の中から会長が委嘱する。
4 監事は、総会で選出する。
5 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。
- (総会)
第7条 総会は、定例総会及び臨時総会とする。
2 定例総会は、年1回会長が招集する。
3 臨時総会は、必要に応じて会長が招集する。
- (経費)
第8条 本会の運営に要する経費は、会費及びその他の収入をもって充てる。
2 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
- (退会)
第9条 会員が退会しようとするときは、理由を付し退会届(別紙様式2)を会長に提出しなければならない。
- 附則
この会則は、平成14年8月8日から施行する。
- 附則
この会則は、平成19年3月8日から施行する。

山形大学関連病院会加盟病院一覧

No.	病院名	病院長名
国立	1 国立病院機構山形病院	熱海 裕之
	2 国立病院機構米沢病院	飛田 宗重
	3 山形県立河北病院	多田 敏彦
県立	4 山形県立総合療育訓練センター	井田 英雄
	5 山形県立新庄病院	鈴木 知信
	6 山形県立鶴岡病院	鈴木 秀人
	7 山形県立中央病院	後藤 敏和
市立	8 寒河江市立病院	後藤 康夫
	9 鶴岡市立荘内病院	三科 武
	10 天童市民病院	松本 修
	11 山形市立病院済生館	平川 秀紀
	12 米沢市立病院	渡邊 孝男
	13 酒田市立八幡病院	土井 和博
	14 尾花沢市中央診療所	加藤 圭介
町立	15 朝日町立病院	小林 達
	16 小国町立病院	阿部 吉弘
	17 町立金山診療所	山科 明夫
	18 白鷹町立病院	高橋 一二三
	19 公立高島病院	須田 嵩
	20 西川町立病院	須貝 昌博
	21 町立真室川病院	室岡久爾夫
	22 最上町立最上病院	佐藤 俊浩
公立	23 公立置賜総合病院	渋間 久
	24 公立置賜南陽病院	原田 正夫
	25 公立置賜長井病院	豊野 充
	26 北村山公立病院	大塚 茂
県内医療機関	27 日本海総合病院	栗谷 義樹
	28 酒田医療センター	田宮 和朗
	29 医療法人社団斗南会 秋野病院	木下 修身
	30 尾花沢病院	渋谷 磯夫
	31 小原病院	小原 正久
	32 小白川至誠堂病院	大江 正敏
	33 公徳会 佐藤病院	沼田由紀夫
	34 三友堂病院	仁科 盛之
	35 三友堂リハビリセンター	穂坂 雅之
	36 至誠堂総合病院	高橋 敬治
	37 篠田総合病院	篠田 昭男
	38 新庄明和病院	田所 稔
	39 千歳篠田病院	吉田 邦夫
	40 天童温泉篠田病院	大田 政廣

No.	病院名	病院長名	
県内医療機関	41 鶴岡協立病院	堀内 隆三	
	42 東北中央病院	田中 靖久	
	43 二本松会上山病院	江口 拓也	
	44 山形さくら町病院	横川 弘明	
	45 医療法人 舟山病院	鬼満 圭一	
	46 みゆき会病院	加藤 修一	
	47 山形済生病院	濱崎 允	
	48 山形厚生病院	本間 守男	
	49 矢吹病院	矢吹 清隆	
	50 横山病院	横山 幸生	
	51 丹心会 吉岡病院	吉岡 信弥	
	52 公徳会 若宮病院	長谷川朝穂	
	53 明石医院	伊藤 義彦	
	54 大島医院	安達 真人	
	55 原田香曾我部医院	香曾我部謙志	
	56 白田医院	白田 一誠	
	57 長岡医院	長岡 迪生	
	58 南陽鈴木内科医院	鈴木 紘治	
	59 光仁会 山形クリニック	鈴木 庸夫	
	60 吉川記念病院	吉川 順	
	61 庄内余目病院	野末 睦	
	62 (医)伍光会 北村山在宅診療所	肌附 英幸	
	県外医療機関	63 岩手県立千厩病院	吉田 徹
		64 石巻赤十字病院	金田 巖
		65 泉整形外科病院	根本 忠信
		66 仙台社会保険病院	田熊 淑男
		67 徳洲会仙台徳洲会病院	福地 満正
		68 みやぎ県南中核病院	内藤 広郎
69 会津西病院		小松 紘	
70 青空会 大町病院		猪又 義光	
71 太田西ノ内病院		松田 信	
72 呉羽総合病院		窪田 幸男	
73 坪井病院		岩波 洋	
74 鳴瀬病院		鳴瀬 淑	
75 枹記念病院		太田 淑	
76 池田脳神経外科病院		池田俊一郎	
77 埼玉県立循環器・呼吸器病センター		城下 博夫	
78 木戸病院		矢田 省吾	
79 立川総合病院		岡部 正明	

山形大学蔵王協議会役員一覧

役職名	教授会	関連病院会	教室員会
会長	学長特別補佐 嘉山 孝正		
副会長	医学部長 山下 英俊 附属病院長 久保田 功	日本海総合 栗谷 義樹	
顧問	山形県医師会会長 有海 躬行 山形県健康福祉部長 大泉 享子	山形県歯科医師会会長 石黒 慶一 山形看護協会会長 川村 良子 山形県薬剤師会会長 服部 智彦	
運営委員	放射線診断科 細矢 貴亮 第一外科 木村 理 泌尿器科 富田 善彦	県立河北 多田 敏彦 日本海総合 栗谷 義樹 米沢市立 渡邊 孝男	会長 今田 恒夫
監事	腫瘍内科 吉岡 孝志	東北中央 田中 靖久	
事務局代表	山形大学理事 深尾 彰	(医学部総務課)	副会長 未定
会計	解剖学第二 後藤 薫		書記長 大泉 弘幸 (医学部総務課)

部会名	教授会	関連病院会	教室員会	その他の機関
関連医療施設部会	◎第一内科 久保田 功 ◎第二外科 貞弘 光章 ◎麻酔科 村上 正泰	○日本海総合 栗谷 義樹 県立中央 後藤 敏和 済生館 平川 秀紀 山形済生 濱崎 允 県立河北 多田 敏彦 小国町立 阿部 吉弘 最上町立 佐藤 俊浩 置賜総合 渋間 久	管理運営部長 未定	山形県健康福祉部長 大泉 享子 山形県病院事業管理者 新澤 陽英 (初期研修医) 高橋 奈那 新野 一穂
研修部会	◎高次脳機能障害学 鈴木 匡子 ◎総合医学 佐藤 慎哉 ◎産科/小児科/口腔形成外科 飯野 光喜	○国病山形 熱海 裕之 県立新庄 鈴木 知信 市立荘内 三科 武 三友堂 仁科 盛之	教育問題部長 未定	(平成22年入) 横瀬 允史 田中 喬之 増田 智幸
企画・広報部会	◎放射線科 根本 建二 皮膚科 鈴木 民夫 麻酔科 川前 金幸	○国病米沢 飛田 宗重 篠田総合 篠田 昭男 市立八幡 土井 和博	広報部長 川勝 忍	(初期研修医) 高橋 奈那 新野 一穂 (平成22年入) 横瀬 允史 田中 喬之 増田 智幸

(注:◎印は部長,○印は副部長)